

## クラブ育成のノウハウを学び、課題解決に役立てる

### クラブミーティング2006(中地区)報告

クラブミーティング2006(中地区)が、5月19日、20日の2日間にわたり、岐阜市の長良川国際会議場で開かれた。文部科学省から委託を受けた日本体育協会の「総合型地域スポーツクラブ育成推進事業」の一環で、全国を東・中・西の3つに分け、地区別に開催している。



岐阜市での「中地区」会場には、北信越・東海、近畿の各ブロック各府県から18年度育成指定クラブ代表をはじめ、各府県クラブ育成アドバイザーら総勢165名が研究協議を繰り広げ、クラブ創設の問題や課題を抽出し、その解決策を探った。

#### 1. 開会セレモニー

開会にあたり、日本体育協会生涯スポーツ推進専門委員会委員長の石川武常務理事と文部科学省生涯スポーツ課渡邊博善課長補佐が挨拶された。石川委員長は「活発な議論と情報交換を期待します」と激励し、渡邊課長補佐は「クラブを育成することによって、現代社会が抱えている問題が解決できるようにお願いしたい」と懇請した。

#### 2. 事業の概要説明

続いて、日本体育協会クラブ育成課根本光憲課長が、委託事業である「総合型地域スポーツクラブ育成推進事業」の概要等を説明した。

#### 3. 特別講演

特別講演では、「クラブ創設に向けた取り組みについて」をテーマに、榊原孝彦氏(中央企画班員・北信越・東海地方企画班員)が、これからクラブを作っていくマネージャーの立場から講演した。要旨は次のとおり。

#### クラブづくりは仲間づくり。味方をたくさんつくるのが大事

マネージャーはコーディネーターであり、クラブづくりの母体づくりが大事。まずは支持・応援してくれる「味方」をたくさんつくるのが大切。私自身、「なぜ、人に頭を下げてお願いしなくてはならないのか」疑問を持ったこともあったが、ひたすら頭を下げて回った。それでもやりたかったのは、新しいものをやりたかったから。新しい価値、目的があった。クラブづくりはまちづくり、仲間づくりであった。仲間もできるが敵もできる。

#### クラブミーティング2006(中地区)スケジュール

1. 開会セレモニー
2. 事業の概要説明
3. 特別講演  
テーマ:クラブ創設に向けた取り組みについて  
演者:榊原孝彦(中央企画班員・北信越・東海地方企画班員)
4. 情報交換・討議  
方法:テーマ別グループミーティング  
コーディネーター:西原康行  
(中央企画班員・北信越・東海地方企画班長)
5. 事例発表  
テーマ:総合型クラブ設立に向けた活動について  
演者:伊藤公一(つけちスポーツクラブ/岐阜県中津川市)  
演者:岸田昌章(げんき倶楽部はしもと/和歌山県橋本市)  
コーディネーター:松田雅彦  
(中央企画班員・近畿地方企画班長)
6. 事業の事務処理説明  
\*クラブ育成アドバイザーの役割(対象:府県クラブ育成アドバイザー)  
演者:野々村ふみ(大阪体育協会クラブ育成アドバイザー)

## 他からのお金を当てにせず、自分たちで！

また、自分たちでお金を出し合うこと（気持ち）が大事で、自分たちでお金を出さず、他からのお金を当てにするのは筋違いでは。参加者が事業に参加して払うお金は事業収入となる。

事業を展開する際には、すばやく決断しなければならない時も多くある。マネージャーが一人で決めなければならない場合も多いし、自分たちにできないことをやらなければならない場合もある。

## ミッションとビジョンを結びつけるのは“事業計画”

ミッション（目的）は、「青少年のため」「まちづくりのため」等が挙げられる。なぜクラブづくりに踏み出したのかさまざま。ビジョン（具体的将来像）は5年後、10年後のクラブの具体的な姿。このミッションとビジョンを結びつける（つなぐ）のが事業計画である。事業を展開するために成岩クラブをつくった。クラブ運営に答えはない。毎日、問題が湧いてくる。

皆さん、10年先、20年先の自分たちのビジョンを立てて、私たちと一緒にこういう問題に関わっていきましょう。自分を励ましながら皆さんにエールを送ります。

## 4. 情報交換・討議（テーマ別グループミーティング）

テーマ別グループミーティングは、参加者が希望したテーマを5～8名の少人数のグループに分けて行った。西原康行氏（中央企画班員・北信越・東海地方企画班長）がコーディネーターを務め、進め方等について説明し、グループ討議に入った。最後に各テーマのグループ進行役が討議内容を発表し、他のテーマの議論内容も披露された。



東海・北信越、近畿の各府県からバラバラにグループ分けにされており、地域の特性やスポーツ環境の違いがある中で、クラブ育成の問題や課題をはじめ、経験者である継続クラブや府県体協クラブ育成アドバイザーからの助言など、活発な議論が繰り広げられた。参加者たちは、熱心に話に聞き入り、メモを取るなど、地域の特性による違いと共通する問題や課題を整理しながら問題解決のヒントを探っていた。

### テーマ別グループミーティング

- テーマ1：クラブの理念・目的-----3グループ
- テーマ2：人材の確保-----3グループ
- テーマ3：活動拠点の確保-----1グループ
- テーマ4：既存団体・組織等との連携---4グループ
- テーマ5：クラブの事業-----5グループ
- テーマ6：財源の確保-----4グループ

## 5. 事例発表

松田雅彦氏（中央企画班員・近畿地方企画班長）がコーディネーターを務め、伊藤公一氏（つけちスポーツクラブ/岐阜県中津川市付知町）と、岸田昌章氏（げんき倶楽部はしもと/和歌山県橋本市）が「総合型クラブ設立に向けた活動」をテーマに発表した。

### 少年団と部活動を“つなげる”からスタート **伊藤氏（つけちスポーツクラブ）**

付知町は人口6,800名。小学校2、中学校1の町。中学校運動部活動が低迷していた中、学校週5日制がきっかけ。学校と地域と指導者のつながりを深める必要性からスポーツ少年団と部活動の連携を目指して「つけちスポーツクラブ」を設立。そして、クラブを総合型クラブへ発展させようと、日体協の育成指定を受けて取り組んだ。クラブの理念は「人づくり、まちづくり」「会員の会員による会員のためのスポーツクラブ」で、「地域みんなでつくる」をスロ

ーガンにしている。創設時は準備委員会を毎月1回と親子スポーツ教室やバレーボール教室、小学生と中学生合同のスポーツ教室や駅伝大会を開催。NPO法人化し、地域のために力と知恵を出し、時間も会費も出している。クラブのゴロマークには人と人とをつなぐ意味が込められている。

### 人材は、本当に地域に眠っていた 岸田氏（げんき倶楽部はしもと）

人口7万人の橋本市のクラブ。誰もが気軽に参加できるよう「スポーツ」という文字を使わず、「げんき倶楽部はしもと」にした。初めての準備会発足に集まったのは3名だけ。研修会や県主催のマネージャー講習会に参加し、色々なことを学んだ。三屋裕子さんによる講演会の企画開催や県主催のクラブ交流会を主管した。竹竿の産地（全国90%）という特徴も活かし、釣堀（フィッシング）も試みた。設立総会は会員20名でスタート。20名の会員を基礎に会員募集など活動を開始した。研修会で講師から「必ず人材は地域に眠っている」と言われたが、本当かな？と半信半疑だった。しかし、ポスターやチラシの背景デザインしてくれる人材が現れた。普段は普通のサラリーマンが、裏には芸術家としての才能を持っておられた。パンフレットのデザインも地域に眠っていた人材が支えている。そのほか、会費の設定でもいろんな意見があった。折衷策として設定しているが、会費と保険料は別々。行政から民間へ。いずれは民なら早い方がとの思いで事務局を行政に置かず、自宅にしている。

#### <松田コーディネーターから>

つけちスポーツクラブのキーワードは“つながり”ではないかと思った。パワーポイントの写真の背景には笑顔と子どもたちの姿があった。

げんき倶楽部はしもとは、準備委員3名からスタートし、それぞれ想いのオーラが連鎖となって広がっていったようだ。

#### 【事例発表に関する質疑】

質疑では、「公認指導者の養成」「会費と事業参加費との関わり」「中学校部活動とクラブとの関係・中体連への登録制」のほか、「1年目と2年目の活動」「NPOのメリットとデメリット」「クラブ育成で失敗した例」「会員と会員以外の人々の事業参加」などについて質問があり、発表者2名が実務経験者として、それぞれ応えた。

最後に、岸田氏が「ヨーロッパのクラブは100年という積み重ねの歴史があります。日本でもこれから歴史を積み重ねていきましょう」と、伊藤氏は「100クラブあれば100種類。地域の皆さんに笑顔と元気を。同じ目的に向かって頑張りましょう」と、これからクラブ育成に取り組む代表らにエールを送った。

この後、松田コーディネーターが「両クラブとも2年目以降のことを考えて取り組んでいる。委託金をランニングコストには使わない。「つながりをもつ」ことが大事で、キーワードは「人(ヒト)」ではないか、と結んだ。

## 6. 事業の事務処理説明など

この後、クラブ育成課金谷主事が、委託事業の事務処理等を説明し、継続と新規クラブが混在する中で、昨年度と変更になったことを含め、事務処理方法について説明した。

説明の後、府県体協担当者やクラブ育成アドバイザーを対象に、クラブ育成アドバイザーの役割をテーマに、大阪体育協会クラブ育成アドバイザーの野々村ふみ氏が、自らが活動してきた内容や体験したことを報告し、全日程を終了した。

（報告：近畿ブロック地方企画班員 立野 誠次）